

前期

国語

(45分 100点)

<注意事項>

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにしてください。
解答用紙は別になっています。
- ② 問題は【一】～【三】まで3題あります。
- ③ 試験時間は45分です。
- ④ 解答用紙には、以下の例にならって受験番号、小学校名、氏名を必ず記入してください。

受験番号：9038 氏名：興南 太郎 出身小学校：○○○○小学校 の場合の記入例

○のところへ記入してください

得点(記入しないこと)	令和○年度 興南中学校 ○期入学試験 ○○
氏名	興南 太郎
記入例	小学校名
良い例	○○○○
悪い例	○●○○

小学校

受験番号	●●●●●●●●●●
	●●●●●●●●●●
	●●●●●●●●●●
	●●●●●●●●●●

記入しない

9
0
3
8

左から順に0～9が並んでいます

- ⑤ 解答は解答用紙の所定のところに記入してください。
- ⑥ 解答は楷書で丁寧^{かいしよ ていねい}に記入してください。
- ⑦ 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

【一】次の会話は、中学一年生の「南さん」と「明さん」そして「優さん」がこれまでにふれてきた文学について、話している場面である。会話を読んで、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧^{かいしょ}に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

南さん：これまで多くの文学作品を習ってきたけど、その中でインシヨウに残っているものは何かな？私はね、『スイミー』。明さんと優さんはどう？

明さん：『スイミー』は確かに心に残っているよ。でも、ぼくが一番好きな作品は（I）が書いた『蜘蛛の糸』かな。難しい漢字がたくさん出てきて、読むのに苦労したけど、主人公がどういう気持ちか理解できると、とても面白かった。

優さん：ぼくは、一つの作品というより、宮沢賢治が書いた作品はどれも好きだなあ。彼は、岩手県の自然が豊かな場所で生まれ育ち、仏教と農民生活にネザした作品を多くのこしたんだ。ただ、今でこそ、高い評価を得ているけど、ほとん^①ど生前は評価されることがなかった。でも、死後、草野心平という詩人によって作品が整理され、世に広まることになった。宮沢賢治は音楽にくわしくて、ベートーヴェンやショパンなどを好んで聞き、自身でも作詞作曲をしていたらしい。彼の詩集である『春と修羅^{しゅら}』が、音楽作品のように音の調べが感じられる詩集といわれているのは、そういう背景があるからかな。

南さん：作者についての背景を知って、作品を読んでみるのも、すてきね。今度私も『春と修羅』を読んでみる。私は、中学に入ってから、古典文学によりカンシンをもつようになったよ。『枕草子^②』とか『徒然草』とか小学校でも読んだことはあったけれど、古典で使われている言葉が今でも使われていたり、私たちの身近な文化として残っていたりすることがわかつ

て、とても興味がわいたの。

明さん：確かにそうだね。毎月一日つてあるけど、「一日」つて「ついたち」と読むのを不思議に思っていたけど、古典で月の始めの日を「ついたち」、月の終わりの「みそか」と言っていたことを習って、他にもそういう言葉がないか、もつと知りたかったよ。さつき、優さんが宮沢賢治が好きだって言ってたけど、南さんは、好きな作家がいるの？

南さん：私は『吾輩は猫である』を書いた（Ⅱ）が好きかな。（Ⅱ）つて今の東京大学を卒業しているのよ。卒業後は、愛媛県松山市や熊本県で英語の教員として働いていたのよ。

優さん：愛媛県松山市と言えば、俳人の正岡子規の出身地だよ。彼にちなんで、俳句のまちとして有名だよ。（Ⅱ）は俳句を正岡子規に習ったんだ。

南さん：二人は約二か月くらい一緒に生活もしていて、親しかったのよ。（Ⅱ）はその後、イギリスにも留学してね、日本に帰ってきてからは、東京大学の講師をしていたのだけど、そのまま教授にはならず、専属作家として朝日新聞に入社したの。当時ね、社長よりも給料が高いことで話題になったらしいのよ。

優さん：松山市には二人と一緒に過ごした「愚陀仏庵」という場所が、子規記念博物館に再現されているよ。実はこの夏、家族旅行で、行ってきたんだ。当時の様子がわかって、面白かったよ。その博物館に、毎年松山で行われている俳句甲子園という大会の俳句が展示されているんだけど、興南高校の先輩たちの俳句があって、すごいなと思ったよ。

明さん：俳句甲子園には、興南高校の先輩が何度か出場しているよね。賞も受賞していたりして、活躍しているみたい。この前、句の評価が新聞記事にものっていたから一部だけ紹介するね。

筆者選の優秀句が次の句。

〈トマト熟る真昼は土の照り返し〉（興南高校 知名凜音）。

このトマトに作者の重心がかかる。成熟を痛みの実感でとらえている。

入選句からも一句。

〈星月夜仕留めて剥いで削いで食う〉（旭川東高校 吉原千世）。

動詞四つが目を引くが、熊・猪などの動物が隠されているところにも祈りを感じた。

（ 朝日新聞 二〇二三年九月三日 歌壇俳壇 小澤實『俳句甲子園の秀句』より一部引用 ）

南さん：俳句の面白さが伝わってくる記事ね。太陽の日差しが（Ⅲ）トマトにも、地面にも、それを見ている作者にも痛みとなつているという内容が、とても共感できたよ。

優さん：ぼくは、星月夜の句について、確かにと思ったよ。この記事の筆者が述べているように、動詞に注目すると、（Ⅳ）という表現があることによって、それまで生きていた動物の命がうばわれたことがわかるよね。何の動物かはわからないけれど、狩りをしている様子もイメージできたよ。それが俳句の面白さなんだと思う。

明さん：なるほど、言葉に着目していくと、いろいろな発見があるね。二人の話聞いていて、ぼくも気づいたことがあるよ。二つの句に共通することとして、言葉として言わなくても想像させることができているよね。ぼくも俳句を創ってみたくなかったよ。小説や俳句、他にも詩や説明文など、多くの文章を読んで、作者の生い立ちとか、作品がどういう背景で書かれたかとかを知ると、自分自身の世界も広がるね。最近、本を読まない人が増えていると言われているけど、進級したり、小学校を

卒業して中学生になったり、そういう節目をきつかけとして気持ちを変えて、本を読む習慣を身につけていくといいかもしれないね。まずは図書館に行つて、本を手にとってみることから始めてみよう。

問一 二重傍線部 A ～ C についてカタカナを漢字に直して答えよ。

- A インシヨウに残っている B 農民生活にネザした作品 C 古典文学によりカンシンをもつ

問二 (I) ・ (II) に入る人物名を次のア ～ カから選び、それぞれ記号で答えよ。

- ア 芥川龍之介 あぐたがわりゆうのすけ イ 夏目漱石 なつめそうせき ウ 石川啄木 たくぼく
エ 小林一茶 いっさ オ 宮沢賢治 みやざわけんじ カ 北原白秋 はくしゅう

問三 傍線部① 「ほとんど生前は評価されることがなかった」について、「ほとんど」がかかる言葉として適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

- ア 生前は イ 評価される ウ ことが エ なかった

問四 傍線部② 「枕草子」のはじめの部分として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 今はむかし、竹取のおきなどいふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつよろづのことにつかひけり。

イ 春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて紫だちたる雲の細くたなびきたる。

ウ つれづれなるままに、日暮らし、すずりにむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやうこそものぐるほしけれ。

エ 月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老ひをむかふる者は、日々旅にして旅をすみかとす。

問五 傍線部③「そういう言葉」とはどういう言葉のことか。その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 漢字本来の読み方ではないが、わたしたちが日常的に使っている言葉。

イ 古典が書かれた時代から使われている言葉で今でも使われている言葉。

ウ 日本語として、正しいかどうかは不明だが、定着している言葉。

エ ある特定の時代だけしか通用しない意味として使われている言葉。

問六 傍線部④「正岡子規」がよんだ俳句として適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 古池や蛙飛びこむ水の音
かわず

ウ 春の海終日のたりのたりかな
ひねもす

イ 柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺
かき

エ 雀の子そこのけそこのけお馬が通る
すずめ

問七 傍線部⑤「有名」の対義語を漢字で答えよ。

問八 傍線部⑥「成熟を痛みの実感でとらえている」を参考に（Ⅲ）に入る言葉として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア さんさんと イ うらうらと ウ じりじりと エ きらきらと

問九 傍線部⑦「動物が隠されているところ」について、優さんが述べているが、（Ⅳ）に入る言葉として最も適当な言葉を次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 仕留めて イ 剥いで ウ 削いで エ 食う

問十 傍線部⑧「俳句の面白さ」について説明している箇所を「～こと」に続くように、二十四字で特定し、はじめの五字を抜き出して答えよ。

問十一 傍線部⑨「きっかけとして気持ちを変え」とあるが、何かをきっかけとして、気持ちを変えろという意味の四字熟語を漢字で答えよ。

【二】次の文章を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

カタカナヲ忘レナイデクダサイ

「ユク河ノナガレハ絶エズシテ」の『方丈記』ほうじようき「和漢混淆文の話」になる前に、もう一つこえなきやいけないハードルがあります。それは、「カタカナ」です。

平安時代が終わって鎌倉時代になると、「漢字十かな」の「和漢混淆文」が登場します。「和漢混淆文」の代表的なものは三つあります。①『平家物語』と『方丈記』と『徒然草』です。『平家物語』は作者不明の軍記物語ですが、『方丈記』と『徒然草』は、どちらも作者がはっきりした随筆ずいひつです。和漢混淆文で『徒然草』だけを持ち上げて、「兼好法師の文章は近代の日本語の先祖だ」なんてことを言うと、『方丈記』の作者である鴨長明かもちちやうめいは気を悪くするかもしれません。「じゃあ、オレのはなんだー」などと。A、『方丈記』は『徒然草』や『平家物語』より、百年以上も古いんです。「日本の和漢混淆文の最初は『方丈記』である」と言っちゃって、そうそう間違いないんですが、あまりそんなふうには言われません。なぜかというと、理由があるのですが……ところで、あなたは、『方丈記』がどういう文章で書かれているかを、知っていますか？

へ ゆく河の流れは絶えずして、しかもとの水にはあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、ひさしく留まりたるためしなし。く

これが、日本の「無常感」^②の代表とされている『方丈記』の書き出しです。そんなにむずかしい文章じゃありません。「うたかた

※
「あぶく」ということだけ理解しておけば、この文章の意味は、なんとなくわかるような気がします。 B、この『方丈記』の文

章、実は「漢字とひらがな」じゃなくて、「漢字とカタカナ」で書かれていたんです。だから、鴨長明が書いたものは、実はこんな風だったんです――。

へ ユク河ノナガレハ絶エズシテシカモモトノ水ニハアラズ。ヨドミニ浮かブウタカタハ、カツ消エカツ結ビテヒサシク留マリタルタメシナシ

なんだかへんでしよう？

『方丈記』の書き出しの文章は、こんな意味です――。

③ 「流れて行く河の水は、いつでも流れ続けている。流れている河には、その「流れ」ゆえに、いつでも「新しい水」がやってくる。つまり、流れ続ける河は「同じ河」のようだが、その河に、いつまでも、「同じ水」があるわけじゃない。河の流れのよどんだところに浮かぶあぶくだって、一方じゃはじけて消えるし、一方じゃべつの新しいのができる。同じところに同じあぶくがずっとあるわけじゃない」「深い意味だな」と思いませんか？「だからなんなんだ？」と思いませんか？まア、それほどいいんです。「意味」は、所詮しよせん「意味」だからです。重要なのは、ここから先です。鴨長明の書いた『方丈記』の書き出しの「意味」が以上のようなものだと思つて、④「ひらがな版」と「カタカナ版」の二つの原文を読み比べてください。

へ ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にはあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、ひさしく留まりたるためしなし

へ ユク河ノナガレハ絶エズシテシカモモトノ水ニハアラズ。ヨドミニ浮カブウタカタハ、カツ消エカツ結ビテヒサシク留マリタル
タメシナシ

どっちが文章として、※さびりゆうちゆう流暢ですか？どっちが文章としてググッときますか？どっちの文章に、「すべてのものには、いつか終わりがくる」の「ドキッ」を感じますか？私は、「ひらがな版」の方に、より「ドキッ」を感じると思いますがね。そうじゃありませんか？

「意味」がわかれば、「ひらがな」の方が読みやすいんです。それは、日本人が「漢字＋ひらがなの文章」に長い時間をかけて慣れてしまったからです。それだから、カタカナだけが続く文章を読むときは、一字一字考えながら読みます。一字一字考えながら読んで、そしてそうなる、そんな文章を読んでいる人間は「この文章を書いた人間だって、自分が読むのと同じように一字一字考えながら書いたのだろう」となんとなく思ってしまうのです。

へ 中略

『方丈記』は、科学する人が観察しながら書いた文章

『方丈記』の書き出しは、ある意味で「科学的な文章」です。目の前を流れて行く河を見て、いろいろと観察しています。

へ ゆく河の流れは絶えずして 彼は河を見てるんです。

へ しかもとの水にはあらず ね、ちゃんと観察してるでしょう？

「目の前の河は、河は河だが、同じ河じゃない。水はいつも流れてるんだから、この水は違う」——（ゆく河の流れは絶えずして

しかももとの水にはあらず)の中には、これだけのことがふくまれています。私の訳が「流れて行く河の水は、いつでも流れ続けている」なんていうくだいものになっているのは、その「背景」を言いたかったからです。

鴨長明は、まず「河」を見て、「水」を見て、それから「あぶく」を見ている。そのことによって、彼がすでに学習⑤して知っている「いつまでも同じということはない」という、仏教的な「無常感」の存在を証明しているんです。『方丈記』の文章は、そういう実証的かつ科学的な文章なんです。でも、「ひらがな版」の〈ゆく河の流れは絶えずして〉には、あまりそういう感じが感じられません。なぜかと言えば、それは、ひらがなの文章が流暢だからです。文章がスラスラと流れて行くから、「ふーん……」と読めてしまう。その文章の内容をあらかじめ知っていれば、「ふーん……」と読みながら、その文章に隠されている「意味」を探そうとします。だから、「河の水」と「河のあぶく」を観察した文章を読みながらでも、「いつか終わりはくるんだな……」なんてことを考えてしまうんですね。でも、鴨長明の文章に「すべてのものには、いつか終わりがくる」なんてことは書いてありません。ここに書いてあるのは、「河の水とあぶく」を例にとった、「いつまでも同じということはない」だけです。

「いつまでも同じということはない」と書いてある文章を読んで、それとイコールである「すべてのものには、いつか終わりがくる」を思い浮かべるのは、「解釈」^{かいしゃく}です。読みなれた「漢字+ひらがなの文章」を読むあなたには「余裕」^{よゆう}があるから、「河の水とあぶくに関する観察記録」というろくにおもしろくもない文章を読みながら、うっかりとそういうことを考えてしまうのです。⑥

【橋本治『これで古典がよくわかる』ちくま文庫より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】

〈語注〉

- * 1 和漢混淆文：現在の日本語の表記体系の元となる文体。主に漢字を主体として、これに平仮名を含めた文章。
- * 2 あぶく：泡のこと。
- * 3 流暢：すらすらと言葉づかいがなめらかな様子。

問一 傍線部①『平家物語』と『方丈記』と『徒然草』とあるが、二つの作品を次の表にまとめた。(I) (II) (III) に当てはまる最も適当なものを、後のア～ケから選び、それぞれ記号で答えよ。

作品名	平家物語	方丈記	徒然草
年代	鎌倉時代	(I)	鎌倉時代
作者	不明	鴨長明	(II)
ジャンル	(III)	随筆	随筆

- ア 平安時代
- イ 鎌倉時代
- ウ 室町時代
- エ 清少納言
- オ 兼好法師
- カ 紫式部
- キ 随筆
- ク 詩歌
- ケ 軍記物語

問二 傍線部②「無常感」とありますが、ここでの無常感の意味を、本文中から十五字で探し出し、最初の五字を抜き出して答えよ。

問三

A

、

B

に当てはまる接続語として最も適当なものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えよ。

A

 ア しかも イ しかし ウ つまり エ だから

B

 ア つまり イ よって ウ なぜなら エ でも

問四 傍線部③「流れて行く河の水は、いつでも流れ続けている。」について、次の問いに答えよ。

(1) 傍線部の一文の主語として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 流れて イ 行く ウ 河の エ 水は

(2) 傍線部の一文の中に含まれている名詞を、すべて抜き出して答えよ。

問五 傍線部④『『ひらがな版』と『カタカナ版』の二つの原文を読み比べ』とあるが、二つを比べる理由として最も適当なものを

次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 文を一字一字しっかりと読むことで、書いた人の気持ちを理解できるということを体験してほしいから。

イ 書かれている意味がわかると、文章の解釈をする「余裕」ができるということを経験してほしいから。

ウ 普段とは違う文の形では読みにくいので、文章の意味が少しも理解できないことを体験してほしいから。

エ 読みにくい文を声に出し読み進めると、「ドキッ」としてしまふことがあることを体験してほしいから。

問六 傍線部⑤「学習」について次の問いに答えよ。

(1) 彼がすでに学習していたこととはなにか。本文中から三字で抜き出して答えよ。

(2) 「学習」という熟語の成り立ちについて、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 似た意味を持つ漢字を重ねる。 イ 動詞の後に目的語をおく。

ウ 前の漢字が後の漢字を説明する。 エ 反対の意味をもつ漢字を重ねる。

問七 傍線部⑥「うっかりとそういうことを考えてしまうのです」とあるが、どのようなことを考えるのか。最も適当なものを次の

ア～エから選び、記号で答えよ。

ア 「ひらがな」で書かれた観察日記は、ろくにおもしろくもない文章だということ。

イ 文章には直接書かれていないが、等しい内容の解釈をつい考えてしまうということ。

ウ 読みやすい文章は、隠されている意味を探すことに夢中になってしまふということ。

エ 同じ文章でも、「カタカナ版」では解釈が伝わりにくいと考えてしまふということ。

問八 本文の表現や内容の特徴について述べたものとして、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 「ひらがな」と「カタカナ」の文章を対比し、それに対する見解を述べる形で論を展開させている。

イ 具体的なカタカナの文書を複数あげながら、「カタカナ」の特徴を論じ、効果的な使用を促している。

ウ 本文全体で問題提起に回答をする形で、『方丈記』の歴史的な価値について、改めて考察している。

エ 本文中に独特な筆者の造語を用いることで、読者に「ひらがな」を印象付ける工夫を用いている。

【三】次の文章は、遠藤彩見の『給食のおにいさん』の一節である。主人公の佐々目宗は有名なコンクールで受賞するほどの料理人でありながら、若林小学校の給食調理員として働くことになった。出勤初日、小学生の男の子が佐々目にぶつかってきたが、驚いた男の子のほうが泣いてしまう。以下の文章を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法で解答した場合は採点されないため注意せよ。

校門の中から、身分証を首からかけた痩せた男がかけ出してくる。今日から上司になる若竹小の学校栄養職員、毛利恵太だ。ツヤのある短髪に黒目がちな瞳、柔らかく「へ」の字をかけた口元。佐々目より三歳ほど若い色白の子犬顔が、あつという間に右肩にせまった。

「早く、その子に謝って」

「謝れて?」

小声で急かされ、訳がわからず問い返した。毛利は応える時間も惜しいかのように、佐々目のかけているサングラスを取り、両肩を屈めといわんばかりにぐつと下へ押さえつけた。

「あの子は佐々目さんを怖がってるんです。視線を合わせて口調は優しく気持ちを込めて、怖がらせて『ごめんね。』早く!」

「何で『ごめんね』?俺、何も悪いことしてないけど」

「子どもを泣かせるのは罪です。早く!」

毛利は細身の体でぶらさがるように、両肩を下へと押さえつける力を強めてくる。下からは男の子の泣き声が鋭く突き上げてく

る。下手に目線など合わせたら弾き飛ばされそうな勢いだ。中腰の状態だためらっていると、ふいにひざ裏に **A**。折れた両ひざがコンクリートの地面に叩き付けられ、鋭い痛みがひざ頭に炸裂した。毛利にひざ裏に蹴りを入れられたのだ。

ひざまずかされた目の前に、涙と鼻水でぐしゃぐしゃの男の子の顔がせまる。濃いまつ毛にふち取られた瞳から涙がとめどなく溢れては、つるりと赤い頬をつたう。小さい歯を食いしばった口から悲しげなうめき声が聞こえてくる。凄まじい光景に **B** になった。命乞いのように、言葉が勝手に口をついて出た。

「い、ごめんね」

動揺で声が少し裏返ってしまったのが情けない。

毛利がすかさず横で屈み、アイロンの効いたパンツのポケットから真っ白いハンカチを出しながら、男の子に優しく話しかけた。

「大丈夫だよ。この人はね、給食のおにいさん。みんなに優しい給食を作ってくれる人だよ。ほら、名札もあるでしょ？」

首にかけて身分証を毛利に引っ張られ、がくと前屈みになった。その間抜けな姿を見て安心したのか、男の子は毛利に顔を拭かれながら、 **C** 泣き止んでいく。

助かった、と **D** した。そしてどうしても言わずにはいられなかった。

「給食のおにいさん、じゃないから。俺は、調理師」

つい、^①ひとり言のような小さい声になってしまったことが悔しかった。

自分は小学生の頃、どんな給食を食べていただろう。

毛利と並んで若竹小の廊下を歩きながら、佐々目はおぼろげな記憶を探ってみた。カレーうどん、コロツケ、チョコデニッシュ。六年間も食べていたのに、すぐに思い出せたメニューはそれくらいだ。給食の時間に友だちと交わしたバカ話やたわいもないゲーム、小さなケンカのほうがよっぽど思い出深い。

美味かったか、不味かったかという記憶もない。給食なんて、歯を磨いたり顔を洗ったりするのと同じ、すぐに流れ去る日常でしかなかった。

「僕、嬉しいです。給食調理場に、佐々目さんのような優秀な調理師さんに来ていただけです」

隣を歩く毛利が、朗らかに話しかけてきた。② 応えずに廊下の窓から外を見た。都心から電車で十五分、駅から自転車で十分、幹線道路二本に挟まれ、大型マンションや公営住宅が並ぶエリアにある若竹小は、まぶしいほどの新緑に囲まれている。

毛利は返事がないことを気に留める様子もなく続ける。

「校長先生もすごい方が来てくれるんですね、って。佐々目さんの経歴書を読んで驚いてましたよ」

臨時給食調理員の募集元である区の教育委員会に提出した経歴書のことだ。調理師を目指し、故郷の茨城から上京して調理師学校の西洋料理科に入学してからの、十年間の経歴が書いてある。

腕をふるってきたレストランやビストロ。

新鋭料理人選抜コンクール優勝、日本アペリティブ協会主催コンクール準優勝、東日本創作料理コンクール特別賞、博多明太子オリジナルレシピコンテスト優勝、などなど十年で手に入れた十数個の賞。

特記事項には、七年前、ル・コルドンブルーのパリ校で三カ月、フランス料理のベーシックコースを受けたことを書いた。特技は

フードカービング。野菜やフルーツを彫って、花や動物、飾りものを作る技術のことだ。三年前、タイに一月月滞在し、百時間コースを受けて学んだ。

「楽しみだなあ、佐々目さんに働いてもらえるの」

子犬顔はめげずに笑顔で話しかけてくる。

「歓迎していただいて」

蹴りを食らったことを皮肉ると、笑顔が泣き出しそうな表情にパッと切り替わった。

「すみません、あの時は必死でつい……。僕、あんな乱暴な真似をしたのは初めてです」

ウソつけ、とチワワを思わせる黒い瞳をにらんでやっただ。初めてなわけがない。自分より一回り体が大きい男に、一撃でひざをつかせたのだ。この育ちの良さそうなた目どきに、あの凶暴性が隠れているのかと思う。

毛利は国立の栄養大学を出て三年、キャリアはまだ浅いが、調理師一名と調理補助三名をまとめ、若竹小の給食調理を仕切り、子どもたちの食育も受け持っている。管理栄養士の資格に加えて調理師免許も持ち、食育に熱心なS区の教育委員会でも一目おかれている優秀な管理栄養士だという。

S区の給食は手作りが基本だ。出汁やスープ、ソースなどもインスタントを使わず手作りする。加えて若竹小では毛利の提案で、野菜メニューを積極的に取り入れ、よりヘルシーな給食を目指しているという。

教室棟と管理棟に分かれた校舎の真ん中から、裏門に向けて四角く張り出した給食調理場は、二年前に改装されたばかりだ。最新式のシステムを誇るように、廊下に面した壁は上半分が一面ガラス張りになっている。ガラスが途切れたところが、給食調理場に入

るスライドドアになっている。毛利に続いて中に入ろうとして、足が止まった。

ガラスの向こうの調理室へと目を向けた。何もかもが白とステンレスで統一され、徹底的に磨き上げられている。巨大な回転釜が中央に三台すえつけられている。まるで工場だ。準備を始めているのか、食品工場で着るような白衣の上下に衛生帽を身につけた人影が三つ、漂うように動き回っている。これから自分も、あの一員になるのだ。

「佐々目さん？」

通路を入ってすぐの栄養事務室の入り口で、毛利が足を止めて促すようにこちらを見た。

一年。一年間だけだと自分に言い聞かせた。妥協も我慢も退屈も覚悟の上だ。生きるために自分で選んだ道だ。

——お前ら全員ビビんなよ、この俺のスキルを見て。

空元気を出し、その勢いでスライドドアの中へと足を踏み入れた。

【遠藤彩見『給食のおにいさん』幻冬舎文庫より一部抜粋 ※問題作成のため一部改変】

問一 二重傍線部 a・b の漢字の読みを、ひらがなで答えよ。

a 急かされ
b 出汁

問二 A ・ B に入る慣用句として最も適当なものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えよ。

A ア 目を奪うばわれる イ 足が棒ぼうになる ウ 衝撃しょうげきが走る エ 高たかをくくる

B ア 頭の中が真っ白 イ はれものにさわるよう ウ 水を打ったよう エ いばらの道

問三 C、 D に当てはまるものとして最も適当な言葉を次のア～エからそれぞれ選び、それぞれ記号で答えよ。

C ア おおいに イ 次第に ウ つぶさに エ いまだに

D ア むっと イ そっと ウ はっと エ ほっと

問四 傍線部①「ひと独り言のような小さい声になってしまった」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 男の子に申し訳ないと思いながらも、毛利にとっても大きな声で怒られたことが不満でやる気をなくしたから。

イ 小学生の男の子が突然泣いてしまったことで、驚くと同時に、思わず笑いそうになることを必死に耐えていたから。

ウ 毛利の言葉に納得できずに言い返したかったが、自分の意見を言っ、再び状況が悪くなるのは困ると考えたから。

エ 最初は怖い印象の毛利だったが、優しい一面を見たことにより、この人を信頼して仕事をしようと思ったから。

問五 傍線部②「応えずに廊下の窓から外を見た。」とあるが、このときの佐々目の気持ちの説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 毛利に怒られたあとなので悔くやしい気持ちを抑えきれずに、褒ほめられたことにも苛いらだ立ちを覚えている。

イ 笑顔で話しかけてくれる毛利さんに申し訳ないと思いながらも、仕事を辞めてきたことに後悔している。

ウ 給食の仕事とこれまでの経歴の差を考えてしまい、仕事に対するモチベーションをあげられないでいる。

エ 新人のことも理解しようとする毛利に感心して、自分自身のやる気のなさを情けないと感じている。

問六 傍線部③「チワワを思わせる黒い瞳をにらんでやった」とあるが、誰が誰をにらんだのですか。()に合うように最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。

・(い)が(ろ)をにらんだ。

ア 佐々目 イ 子犬 ウ 毛利 エ 校長 オ 男の子

問七 傍線部④「まるで工場だ」とあるが、このような表現技法として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 直ゆ法 イ 擬人法 ウ 倒置法 エ オノマトペ

問八 傍線部⑤「あの一員」が指している内容を、「人たち。」という文末に続くように、文章中から十五字で抜き出して答えよ。

問九 この文章の表現の特徴として**適当でないもの**を次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 視点を佐々目にし、発していない心情の言葉も表すことで、佐々目の心情を読み取りやすく描いている。

イ 佐々目の経歴などをはさむことで、給食の仕事との差を感じている佐々目の心情を浮き上がらせている。

ウ 佐々目や毛利さんの人物像を細かく描くことで、これからの佐々目の心情変化を想像しやすくしている。

エ 佐々目の経歴と毛利の経歴を対比することで、給食調理という仕事に求められている能力を示している。